

飼料作物奨励品種選定試験

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

市販されている飼料用作物の種子について、どの品種が鳥取県の栽培環境に適したものであるかは、種苗会社の栽培データだけでは判断しづらい。そこで、農家に推奨する「奨励品種」を選定するための基礎資料とするために、飼料作物の中でも県内で栽培面積の多い飼料用トウモロコシ及びイタリアンライグラスについて、3か年の反復試験を行い、生育特性及び収量性について調査した。

(2) 情報・成果の要約

1) 飼料用トウモロコシ

2012年度に3か年の試験が終了した3品種全てで、総合評価成績の平均点が標準品種を上回る成績であった。

2) イタリアンライグラス

2012年度に3か年の試験が終了した品種はなかった。

2 試験成果の概要

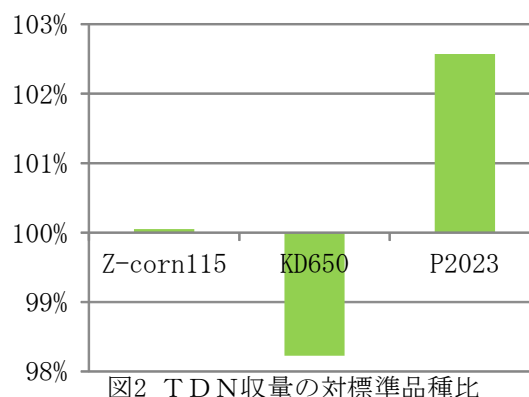
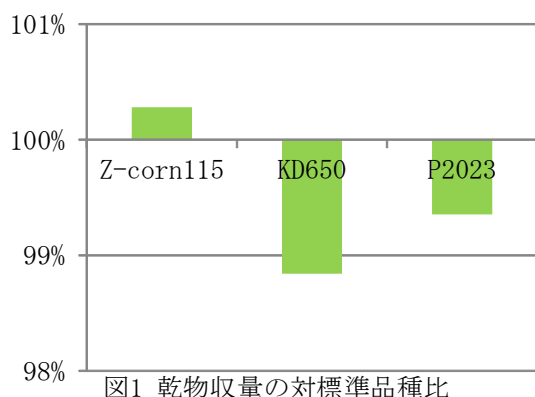
(1) 飼料用トウモロコシ

2012年度に3か年の反復試験が終了した3品種（‘Z-corn115’ ‘KD650’ ‘P2023’）の総合評価（収量性、耐病害虫性及び耐倒伏性等を数値化して評価）は、3品種全てで、3か年の平均点が標準品種を上回る成績であった（表1）。

早晩性	品種名	2010年度	2011年度	2012年度	平均
早生	セシリア（標準品種）	72	65	84	73.7
	Z-corn115	74	74	82	76.7
	KD650	74	71	78	74.3
中晩生	P3470（標準品種）	66	77	74	72.3
	P2023	74	75	78	75.7

このうち、収量性についてみると、乾物収量、TDN収量ともに標準品種と大きな差はなく、3品種とも標準品種と同等の収量性であると考えられる（図1、2）。

これらから、3品種とも鳥取県の栽培環境に適した有望な品種であると考えられる。



2012年度単年度の収量成績については乾物収量、TDN収量ともに‘Z-corn128’が標準品種を上回った（図3～6）。

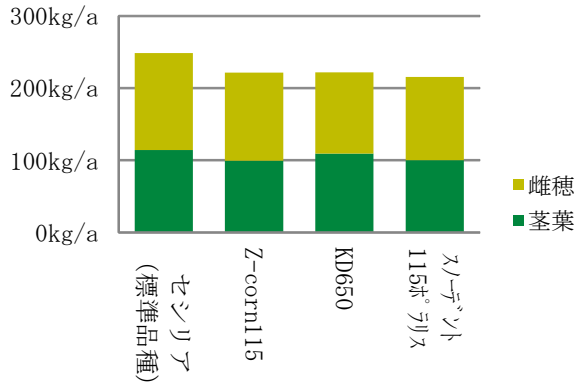


図3 早生品種乾物収量

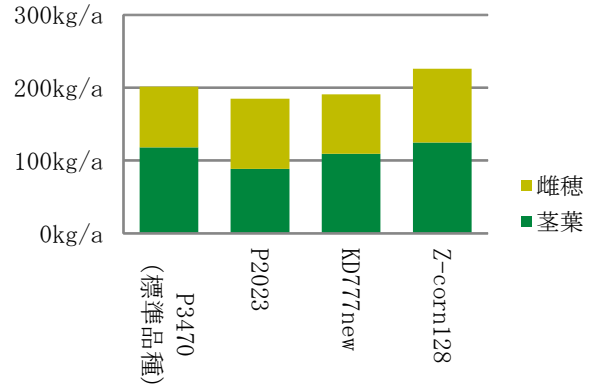


図4 中晩生品種乾物収量

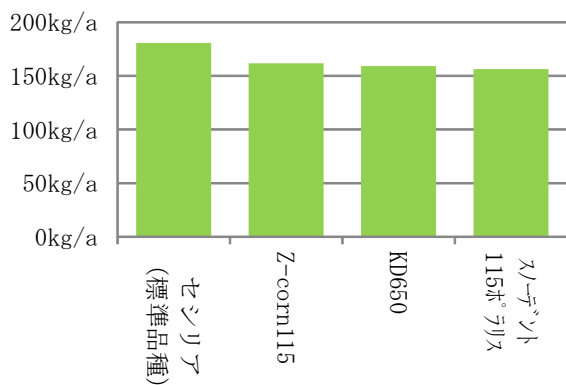


図5 早生品種TDN収量

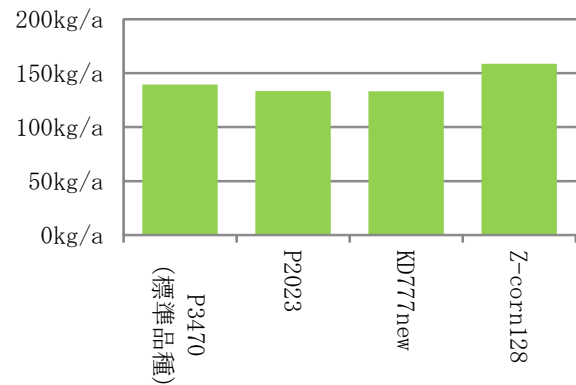


図6 中晩生品種TDN収量

(2) イタリアンライグラス

2012年度に3か年の反復試験が終了した品種はなかった。

2012年度単年度での乾物収量では、標準品種を上回った品種はなかった (図7)。

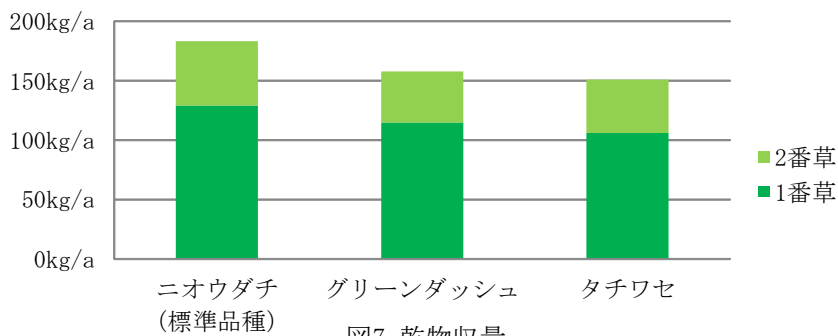


図7 乾物収量

3 利用上の留意点

今回試験終了した品種については、鳥取県奨励品種選定会議に諮り、県の奨励品種にするかどうか検討する予定である。

4 試験担当者

酪農・飼料研究室 研究員 遠藤寿英
 室長 吉岡 勉
 研究員 富谷信一*

*現 西部総合事務所農林局西部農業改良普及所大山普及支所